



サイエンス・ティーチャー養成コースのカリキュラム

サイエンス教育は遊びの中に。 「教育には主体性と遊びの心が必要です」

どこの国でも、遊びには三つの型があるそうです。「ごっこ遊び」、「しりとり」、「宝探し」の三形態です。「ごっこ遊び」は、大人の世界をモデルに真似る遊びです。「〇〇ごっこ」によって、子どもは大人に育って行きます。「しりとり」遊びは、相手の情報の一部を引き取り(自己規制)、もう一度自由に作りかえて返す遊びです。人数が多ければネットワークになり、言葉の編集力を遊びながら学んで行きます。「宝探し」は、断片(地図の切

れ端)しか持たない一人ひとりが、持ち寄って集め、そこにオリエンテーションが生まれ、協力、役割分担を通して宝を手に入れます。

サイエンス・ティーチャー養成コースでは、こうした遊びの中に「サイエンス」の卵(起源)があると考え、遊びを通してサイエンスを育て、「魅力ある教師」という宝物を手に入れるカリキュラム構成となっています。

サイエンス・ティーチャー養成コースのカリキュラムの流れ

